



私をクリエイティブにしてくれる街、長崎

小國雅香 =文
Text by Oguni Motoka

プロフィール◎おぐに もとか

ジャズピアニスト、作曲家。長崎市生まれ。東京で活動後、平成12年11月より活動の拠点を長崎に移し、長崎をはじめ、福岡、東京などで、ライブやイベントでの演奏を中心に活躍中。4月にオープンした長崎県美術館のテーマ曲を作曲（DVDが美術館にて発売中）。5月に4枚目のアルバム「Don't Ask Me」をリリース。



私が故郷長崎に戻り、早いもので5年目を迎えました。たくさんの素晴らしい仲間たちとの出会いや、信頼できる関係者、スタッフの支え、そしてリスナーの皆様からの温かいご支援のお陰で、今日の私が存在できていると痛感する毎日です。

高校生まで長崎で育った私にとって、約17年ぶりに戻った故郷長崎は、失われた自然や景色もありましたが、変わらない海の香りと山の緑、長崎らしい坂道、西洋と中国の影響を受けたチャンポン文化、食べ物の美味しさ、街の持つ空気感、そして何と言っても、そこに住む人の温かさ…など生活の中の、身近な全てによって、自分が自分らしく、自然体でいられる場所だと思います。

今回、長崎県美術館の『美術館にテーマ曲』という世界初の試みに関われたことを大変光栄に思っています。こちらに戻ってから、長崎にまつわる曲を数多く書かせていただきましたが、これもやはり『長崎』という街が持つ魅力が私をクリエイティブにしてくれるからだと思います。

昔の元気だった頃の長崎のように、『長崎から発信』『長崎から全てが始まる』そんな街であって欲しいと願いますし、私は『音楽』という媒体を使って『文化の発信』に少しでもお役に立てたらという思いで一杯です。

小國雅香ホームページ◎<http://www.motoca.jp>



美術館ロビーでテーマ曲を披露

長崎で真円真珠の養殖に成功した世界の真珠王

高島末五郎は、明治十三年（一八八〇年）、東彼杵郡下波佐見村（現在の東彼杵郡波佐見町）に生まれた。家が貧しく、早くに父を亡くしたため学校も十分に行けず、理髪師見習いや時計修理工として働いた。その後、大村湾の天然真珠に目を向け、真珠を仕入れて大阪方面で商いをするようになった。

末五郎が真珠の販売にとどまらず、養殖まで手がけるきっかけとなったのは、御木本幸吉との出会いだった。その頃御木本は三重県の伊勢志摩で、世界で初めて真珠の養殖に成功、養殖業を發展させていた。御木本を訪ねた末五郎は、その真珠づくりへの情熱に触発され、大正二年（一九一三年）、北松浦郡山口村俵ヶ浦（現在の佐世保市俵ヶ浦町）に小さな養殖場を開設。本格的に真珠の養殖に取り組み始めた。

当時の養殖真珠は、半円状の真珠が主流だったが、研究者の間では真円真珠の養殖技術の開発が進められていた。末五郎はこの画期的な技術を採用し、やがて苦心の末に真円真珠の養殖に成功した。以降、北松の小佐々をはじめ県北地域を中心に次々と養殖場を設立し、事業を拡大していった。そして昭和十二年（一九三七年）には年間四四〇貫（一、六五〇キロ）を生産するようになり、御木本を抜いて世界第一位の生産者に上りつめた。

末五郎は御木本と並び「世界の真珠王」と称され、昭和二十六年、七十歳で亡くなるまで、その生涯を真珠養殖にささげた。

長崎偉人館

第26回

高島 末五郎

【実業家】

(1880年～1951年)

